



## はじめてのこと

校長 加藤 敦彦



正面玄関にそびえたつ大きな蘇鉄の樹に花が咲きました。雄株でトウモロコシのような形をしていて黄色です。10年に1度咲くかどうか、そのくらい珍しいことだそうです。きっと何かの吉兆かもしれません。

新型コロナウイルス感染の流行も、そして8月に入って授業をしていることも初めての経験です。生きていくということは、この初めての経験の連続です。誰もが不安になりますが、目の前の状況に一喜一憂することなく、皆で知恵を出し合って困難な状況を乗り越えていきたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

## おいしい簡易昼食

『お腹が空いた』当初は、そんな声が聞こえてきましたが、簡易昼食にすっかり慣れてしまいました。9月からの普通給食に戻った時、少し縮んだ胃袋は大丈夫でしょうか。着任以来、残菜率を区平均程度に減らす取組をしています。

※数値は%、( )内は区の平均

年度	H26	H27	H28	R1	R2.6月
残菜率	5.3% (3.1)	3.0 (3.0)	2.4 (2.8)	2.8 (2.2)	0.6

※6月中(簡易昼食)では、「鮭菜ご飯」の残菜量が2.4%という数字でした。子供たちは白いご飯が好きなようです。



鮭菜ご飯と肉じゃが



## 歴史の重み ~思いをつなぐ~



校庭の東側に1本の樹があります。昨年の春頃、銀杏に囲まれて葉をつけていないことに気付きました。専門の造園業者に診てもらいましたが、既に枯れていました。ここ数年の猛暑に耐え切れなかったものと思われます。

実は、この樹は、歴史ある樹木の一つでした。

今から遡ること35年前、本校が統合する前の千寿第四小学校の創立60周年を記念して植えた樹です。モクレンの一種で、中国の呼び名が「早蓮花樹(かんれんかじゅ)」です。成長すると白い花を咲かせると言います。中国にしかないはずの樹が、なぜ本校の敷地にあったのか……。実はある方からいただいたものですが、詳細を調べるのは、来年、周年行事を控える子供達に託したいと思います。

生あるものはいつかなくなります。でも、早蓮花樹への思いは永遠に人々の心に残すことができます。今年の3月、1本の木蓮の苗木を購入しました。それから数か月、木蓮はすくすくと育ち、いつか独り立ちの時を迎えます。子供たちの手によって早蓮花樹のあった場所へ移し換えようと思います。来年、本校は創立20周年を迎えます。その時まで、そしてそれ以降もこの樹に託した夢をずっと持ち続けたいと思います。

